



第2次大田原市子どもの読書活動推進計画

大田原市は、平成26年度から5年間を計画期間とする「第1次大田原市子どもの読書活動推進計画」を策定し①家庭・地域・学校・図書館での子どもの読書活動の推進②読書活動推進のための環境整備③子どもの読書活動への理解と関心を深めるための啓発活動の3つの項目を基本方針として定め、学校、家庭、地域を通じた社会全体で、子どもたちが本と出会う身近な場所が増え、本との楽しい時間をもつための環境づくりに取り組んでまいりました。

今回、第1次計画での取組の成果と課題を踏まえ、さらに充実させるものとして、「第2次大田原市子どもの読書活動推進計画」を策定しました。

1 計画の目的

子どもたちが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かにし、人生をよりよくするために欠くことができないもののひとつに読書活動があります。そこで、第1次計画での「子どもが読書の楽しさに気づき、自ら読書に楽しむことができる環境づくり」を家庭・地域・学校・図書館など社会全体でさらに推進します。

読書の楽しさに触れ、自発的な読書習慣が身に付き、豊かな人生を実現できる子どもを育む

2 計画の対象

おおむね、18歳以下の子どもを対象とします。

3 計画の期間

本計画は、平成31(2019)年度から平成35(2023)年度までの5年間として推進します。

4 基本方針

1

家庭・地域・学校・市立図書館等の連携・協力による読書活動の推進

家庭・地域・学校・市立図書館等がそれぞれの役割に応じた子どもの読書活動推進に取り組むとともに、これまでの連携・協力体制の発展を目指します。

2

子どもの発達段階に応じた取組の推進

子どもたちが、生涯にわたる読書習慣を身に付けられるよう、家庭・地域・学校・市立図書館等が連携・協力し、それぞれの発達段階での効果的な取組・環境整備を充実していきます。

3

読書活動の啓発

子どもの読書活動の重要性について、市民の理解と関心を高めるよう読書活動の啓発をしていきます。

5 計画の指標

計画の基本目標の実現に向けて、下記のとおり本計画の数値目標である指標を定め、計画の最終年である平成35(2023)年度の目標値を達成することを目指します。

1 家庭における読み聞かせを増やします。(週1回以上の読み聞かせを増やします。)

区分	平成30年度現状値(2018)	平成35年度目標値(2023)
幼稚園・認定こども園・保育園の保護者	67.8%	80%

2 子どもの不読率の減少に取り組めます。(1か月の平均読書冊数 0冊を減少させます。)

区分	平成25年度現状値(2013)	平成30年度現状値(2018)	平成35年度目標値(2023)
小学3・5年生	3.9%	1.8%	1.0%
中学2年生	6.9%	3.5%	2.0%
高校2年生	未調査	31.2%	30.0%

3 「家読(うちどく)」への意識を高めます。(家読を意識する割合を増やします。)

区分	平成30年度現状値(2018)	平成35年度目標値(2023)
幼稚園・認定こども園・保育園の保護者	31.5%	40%
小学3・5年生	72.8%	80%
中学2年生	51.9%	60%
高校2年生	22.0%	30%

4 市立図書館や学校図書館等の利用の増加を図ります。(月1回以上の利用を促進させます。)

区分	平成30年度現状値(2018)	平成35年度目標値(2023)
幼稚園・認定こども園・保育園の保護者	28.9%	30%
小学3・5年生	78.3%	80%
中学2年生	35.8%	40%
高校2年生	26.6%	30%

家読(うちどく)って!!

家族みんなで好きな本を読んだり
読んだ本について話したり
家族で読書習慣を共有することです。

